

平成22年度 第1回帯広市総合計画策定審議会 議事概要

1. 日 時 平成22年9月10日(金) 16:45~18:45

2. 場 所 市役所10階第2会議室

3. 議事概要

会長の互選について

会長には、佐々木委員、職務代理者には、梶委員が選出された。

報告事項1 第六期帯広市総合計画について

第六期帯広市総合計画の概要について、事務局より説明。

報告事項2 市民実感度調査結果について

「資料2 平成22年度 市民まちづくりアンケート集計結果」について、事務局より説明。

【委員】

帯広のまちを考えると、十勝の中心都市でありながら、活力がないと実感している。我々は何すべきか考えなければならないが、第六期総合計画の特徴は何か。計画の策定に関わった佐々木会長に伺う。

【会長】

第六期総合計画は、人口減少化の中で、量的拡大から生活の質の向上へ重点を置く考え方を明確にし、策定した計画である。また、計画に成果指標を設定するなど、実施した行政活動を評価して、次の行政活動につなげるための評価制度を計画に採り入れたところが大きな特徴である。

【委員】

「災害への備えが整っている」かどうか、市民に質問してみても、それぞれの人により、実感は異なると考える。一般的な実感を把握する聞き方となる工夫が必要なのではないか。

【事務局】

市民実感度の設問の中には、回答者が実感を持ちづらいものもあると考えるが、こうした人たちの回答も含めて、市民全体の実感がどうかという視点で捉えている。また、より専門的な分析については、各分野ごとに別途調査を行うものであると考えている。

協議事項 1 政策・施策評価の試行実施について

「資料3 総合計画の年間スケジュールと審議会の関わり」、「資料4 まちづくり通信 2010(案)」について、事務局より説明。

【会長】

成果指標による判定が「a」、市民実感度による判定「b」と判定が乖離した場合、総合評価で「A」あるいは「B」とすることができるが、この考え方について事務局より補足説明をいただきたい。

【事務局】

成果指標による判定と市民実感度による判定をみて、機械的に総合評価をするのではなく、成果指標や市民実感度以外の行政活動の成果を客観的に表すデータや、行政の取り組み状況などを加味して、最終的には、評価者の判断により、総合的に評価を行うのが、今回の評価手法の特徴となっている。

【委員】

総合評価において、成果指標による判定と市民実感度による判定が乖離した場合、市民は実感としてよく分からないであろうから、成果指標を重視するというのでは、行政の都合のよいお手盛りの評価となる場合がある。2つの判定の乖離の理由を把握することが重要である。

【会長】

総合評価は、機械的に算出されるのではなく、最後は、評価者の判断によるものとなっているが、行政自らの都合の良い評価とならないかという心配もある。これについては、総合評価に至る経過を明記することとしている。
評価の信頼性を担保することは、重要なことである。

【委員】

アンケートを送付する市民に対し、回答結果が何のために使われるのかを伝えることが重要である。例えば、アンケート結果が今後の議会議論に活かされるのであれば、アンケートの回答者は、議会議論に興味を持つことになり、市民参加型行政に繋がる。また、アンケートの回収率も向上することになると考える。

【委員】

アンケートの回答者が、自らの回答が、全体の回答結果と比較して、どうであるか知ることができることが重要である。そのためには、アンケート結果の周知も重要である。

【委員】

アンケート票の最後に「まちづくりに対するご意見・ご提言」欄があるが、この部分は、市民の生の声である。さまざまな意見があると思うが、行政の具体的な取り組みに繋がる重要な意見であると思う。

【委員】

アンケートの回収率は全体では高いと思うが、年齢別にみると、回収全体に占めるシェアが60歳代、70歳以上でいずれも20%を超え、合計で40%超となっているのに対して、20歳代、30歳代合わせてシェアが21%となっている。

アンケート送付先は無作為に抽出されたとのことであり、帯広市の年齢構成がそのまま反映されたのかもしれない。ただし、アンケートの結果が、将来のまちづくりに反映されるのであれば、将来を担う20歳代、30歳代のシェアを上げていく何らかの工夫が必要である。

【委員】

実感度調査結果を参考にしながら、行政の取り組みを改善していくことは、回数を重ねるにつれて、市民に浸透し、市民が行政に関心を持ってもらうことに繋がる良い仕組みだと考える。

また、都市像の「人と環境にやさしい 活力ある 田園都市 おびひろ」を市民イメージできることが必要と考える。都市像の言葉は、全体を表現する抽象的な言葉でよいと思うが、帯広市はこんなまちを目指しているんだとイメージできるもの、都市像と8つのまちづくりの目標の間をつなぐものがあれば、市民は、帯広市がめざすまちづくりと取り組みの目標との結びつきを実感できるものと思う。

以上